

# 自己評価報告書

2025年5月1日現在

学校法人滋慶学園  
東京ウェディング・ホテル専門学校

2025年5月1日 作成

## 目 次

1 学校の概要等	1	基準5 学生支援	36
学校の概要	3	5-16 就職等進路	37
自己点検・自己評価に対する姿勢	4	5-17 中途退学への対応	38
学校関係者評価委員会の構成と意義	5	5-18 学生相談	39
教育理念	6	5-19 学生生活	41
学校の目標(今後5年間)	7	5-20 保護者との連携	43
学校組織の整備	8	5-21 卒業生・社会人	44
本年度の重点課題	11		
		基準6 教育環境	46
基準1 教育理念・目的・育成人材像	12	6-22 施設・設備等	47
1-1 理念・目的・育成人材像	13	6-23 学外実習、インターンシップ等	49
		6-24 防災・安全管理	50
基準2 学校運営	15		
2-2 運営方針	16	基準7 学生の募集と受入れ	52
2-3 事業計画	17	7-25 学生募集活動	53
2-4 運営組織	18	7-26 入学選考	55
2-5 人事・給与制度	20	7-27 学納金	56
2-6 意思決定システム	21		
2-7 情報システム	22	基準8 財 務	57
		8-28 財務基盤	58
基準3 教育活動	23	8-29 予算・収支計画	60
3-8 目標の設定	24	8-30 監査	61
3-9 教育方法・評価等	25	8-31 財務情報の公開	62
3-10 成績評価・単位認定等	28		
3-11 資格・免許取得の指導体制	29	基準9 法令等の遵守	63
3-12 教員・教員組織	30	9-32 関係法令、設置基準等の遵守	64
		9-33 個人情報保護	65
基準4 学修成果	32	9-34 学校評価	66
4-13 就職率	33	9-35 教育情報の公開	68
4-14 資格・免許の取得率	34		
4-15 卒業生の社会的評価	35	基準10 社会貢献・地域貢献	69
		10-36 社会貢献・地域貢献	70
		10-37 ボランティア活動	72
		2024 年度重点目標達成についての自己評価	73

## 学校の概要

### 1. 学校の設置者

東京ウェディング・ホテル専門学校は、学校法人 滋慶学園が設置しています。  
学校法人滋慶学園は、共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人になります。

### 2. 開校の目的

本校は、学校教育法に基づき、おもてなしの心と、ウェディング分野にかかわる知識と技術を備え、ウェディングのプロセスにおいて、お客様の夢を具現化することを通じ、顧客満足を最大化できる「ウェディングの真のプロ」を養成することを教育の目的としています。

### 3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 尾崎 哲則 所在地:東京都江戸川区西葛西3-1-15 連絡先 03(5676)3901

### 4. 学校の沿革、歴史

2009年 4月 厚生労働省指定美容師養成施設、東京都専修学校の認可校として学校法人 滋慶学園「東京ベルエポック美容専門学校」を開校  
2010年 4月 ウェディング業界の変化に対応して、東京ベルエポック美容専門学校にブライダル科を設置  
2012年 3月 東京ベルエポック美容専門学校、ブライダル科1期生卒業  
2014年 4月 学校法人 滋慶学園「専門学校 東京ウェディングカレッジ」開校 ウェディング科を設置  
2016年 3月 専門学校 東京ウェディングカレッジ、ウェディング科 1期生卒業  
2017年 4月 ウェディング科 定員増(入学定員 80名 から 120名へ)  
第2校舎竣工 所在地:東京都江戸川区西葛西3-22-14  
2018年 4月 国際ホテル科(2年課程 入学定員40名)設置  
2020年 4月 東京ウェディング・ホテル専門学校 に校名変更  
2021年 4月 ウェディングプランナー科(3年課程 入学定員40名)設置  
ウェディング科(2年課程)の入学定員変更 120名 から 80名へ  
国際ホテル科 を 国際ウェディングホテル科(1年課程 入学定員40名) へ 名称変更および修業年限変更  
2022年 4月 国際ウェディングホテル科 を 募集停止  
2023年 4月 ウェディング科 修業年限変更 (2年制 から 3年制へ)  
2025年 4月 ウェディング科を総合ウェディング科に名称変更

### 5. その他の諸活動に関する計画(防災計画)

東日本大震災の被害状況を教訓に、定期的に地震・津波・火災を想定した防災訓練を実施している。合わせて緊急地震速報、安否確認メール・LINE のテストも行い、災害に備えた体制を整えています。

## 自己点検・自己評価に対する姿勢

2005年3月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。学生一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり職業人教育※1は、専門学校においてのみ可能なことであると考えます。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※2の開発に取り組んでいます。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた具体的な目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っていきます。

※1 職業人教育：職業人教育を我々は以下のように定義しています。

職業人教育＝キャリア教育(職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育)＋専門職業教育(特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育)

※2 教育システム：広義の教育システムを5つの要素で位置付けています。

- ① 「養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)
- ② 「目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)
- ③ 「目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)
- ④ 「目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師、スクールカウンセラー等)
- ⑤ 「評価基準」(透明性、公平性、競争性)

## 学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行うにあたり、学校関係者評価委員会を組織します。  
本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は

- ・学生の保護者
- ・卒業生
- ・関係業界関係者及び企業関係者
- ・高等学校
- ・地域住民

などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施と  
その結果の公表・説明を行い、学校関係者からの理解と参画を得て、意見や評価をもらいます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果すとともに、  
地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

## 教育理念

### 実学教育

【特定の職種で、即戦力となる専門的な知識・技術(テクニカルスキル)を身につけます】

実学教育の要となる教育システムが LT2 教育システムです。LT2 教育システムは、見て(LOOK)、体験して(TRY)、聴いて(LISTEN)、考える(THINK)というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育システムです。体験することにより、知識や技術を言葉で知っているだけでなく、身体で記憶するものとなります。その上で聴くプロセスを経ることで、納得性が高まり理解が深まるため、考える事にスムーズに移行させられる様になります。そのため、問題にぶつかった時に自分自身の頭で考え、実行する力を身につけることが出来るようになるのです。

また、資格取得の必要がある場合は、それに合格しうる知識や技術を身につけてもらうことが何より大切と考えています。

そのため、専門職として業務の遂行に必要な資格を確実に合格するよう万全の指導を行っています。

### 人間教育

【いかなる職種でも必要な、プロとしての身構え・気構え・心構えを持った職業人を養成します】

日頃の学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。学内には、『今日も笑顔で挨拶を』の標語を掲示し、「笑顔であいさつ」を習慣にする指導にとりこんでいます。授業や研修等の様々なカリキュラムを通じて基本的なマナーはもちろんのこと、各々の職種で必要とされる、プロとしての身構え・気構え・心構えを持った職業人育成に力を入れています。

### 国際教育

【より広い視野でモノゴトを捉えることが出来るよう、国際的な感性を養います】

21世紀はボーダーレスの時代といわれています。あらゆるジャンルにおいて外国の方々とビジネスをする事が普通のこととなるでしょう。

また、インターネットの利用も急激に増えることでしょう。国際化＝英会話とのみ考えるのではなく、コミュニケーションの手段として英会話(英語理解力)は大切な要素となりますが、相手のことを考え、相手の国のことを考えることも大切なことです。同時に自国のこと(歴史・文化・伝統)、自分のことをよく知り主張できることも大切です。つまり、国際的な感性を学び知ることの方がもっと大切です。留学生との交流・海外研修・英会話授業・インターネット利用等を通じて国際性を高め、国際的な感性を身につけてもらうことを建学の理念としています。

## 学校の目標(5年間)

5 年間の目標(2021年度から 2026 年度までの 5 年間に、以下の目標を達成します)

1. 入学定員の継続的充足
2. 退学者率目標 2.8%
3. 就職率 100%(就職者率 95%)

目標の意図

1. 学校運営の基盤は安定的な学生募集であり、教育・就職実績の総合評価であると捉えています。  
その中で、継続的に定員を充足していくことは最も基本的な目標設定といえます。
2. 専門学校の中退がきっかけでニート、フリーターになるリスクは高く、その予防は社会的使命といえます。  
また、中退は学生個人の問題に帰属すると捉えず、私たちの教育力、学生への支援力に課題があると捉え、その質の向上に取り組んでいます。
3. 職業準備の目的を持つ専門学校では、学生が学んだ専門性を活かし全員就職を実現することが、専門学校の教育力の価値になると考えています。

目標を達成するための方策

### 1. 3 年制教育

従来の 2 年制教育では入学後の約半年間で就職活動に臨む準備を強いられるため、本来しっかり構築されるべき職業観や就労意識の醸成に充てる期間が短くなってしまっていた。3 年制への移行により、従来の教育よりも上記 キャリア意識を高める教育に注力し、目的意識喪失からの退学者を抑制し、より質の高い卒業生を輩出し、業界への貢献を高めていきたいと考えています。

### 2. 「学校での学びと現場での学びがリンクする」現場体験教育の推進

イメージ先行で入学しがちな学生の将来像を確固たるものにする為に、学外・学内の両場面において職業観を養う教育プログラムを提供していきます。

① ウェディングビジネスモデルの理解 ② 各業種の具体的な業務内容理解 ③ 各業種間のリレーションのあり方 といった、より実学的な内容について学校で学び、さらには実際の現場での経験を重ねていく事で、ウェディング・ホテル業の仕事観・職業観の昇華を目指します。

### 3. 「自ら考え、行動できるプロを育成する」自律・協働教育の推進

社会の変化、業界の変化が激しい現代において、自分の意思で考え行動できる力を身に付けていることが求められています。

学校での指導・支援両面において「自律・協働」の 2 つの基本姿勢を育む教育を掲げ、教育活動を計画・実行していきます。

### 4. 教育力向上のための実践的取り組み

学生一人ひとりに目標をクリア出来る力を習得させる為に必要な授業力、教授力の向上を図ります。

講師研修会の実施や公開授業、授業アンケートを通じて質的向上を図ります。

本部の教育力向上を担当する部署と連携するとともに、学生の学力・意欲等を把握するシステムにより学生の特性に合う教育を展開します。

## 学校組織の整備

### ① サッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門(教務キャリアセンター部、広報センター、学生サービス)で構成しています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。機に応じて役割が変化し、通常の役割を越えて働くことを良しとする、サッカーのような組織を理想としています。

### ② 職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の運営方針、人事の決定を行う。
	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行う。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行う。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	運営本部長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行う。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	学校運営全ての業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現に向け諸活動を行う。
	学科長	学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局(次)長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局(次)長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	リーダー職	学科目標達成のため、学科長の監督のもと、学科長を補佐し、実務リーダーとして業務を執行する。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行う。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し、積極的にその諸活動を行う。

## 学校組織の整備

### ③ 意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
理事会・運営協議会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関。	7回/年	理事長	常務理事・指名者
EAST 戦略会議	最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	6回/年	常務理事	運営本部長・指名者
分野戦略会議	複数校からなる分野グループ。EAST 戦略会議に基づく年間目標達成に向けた実施チェックをおこなう。教職員の目標達成力、ならびに問題解決力を育成強化する。	1回/月	運営本部長	運営本部長・事務局長・事務部長・教務部長・指名者
運営会議/全体会	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。教職員の目標達成力、ならびに問題解決力を育成強化する。	1回/月	事務局長	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に組織する活動。例：業務改善委員会、ハウスウェディング運営プロジェクト etc	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について、時間をとって話をする事により、スタッフ、トレーニーへノウハウやスキルを伝え、問題発見、解決力を高める。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーニー
講師 O・N・O	授業運営、教育方針の徹底をはかり、問題発見、解決、改善の機会とする。	1回/年	教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善を図る。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする。	毎日	事務局長	全教職員
議題・議事録	議題配信：事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信：決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	主催者・書記	参加メンバー全員

O・N・O:ONE・ON・ONE ミーティングの略 1対1の面談

## 学校組織の整備

### ④滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称 JESC、以下 JESC という)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。  
本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための教職員の研鑽と人材 育成の場として毎年開催しています。
JESC 教育部会	関連する学科、コースを設置している学校群で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、 資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験 問題作成などです。
JESC 国家試験対策センター	学校の枠を超えた学校間連携を図り、同じ分野を教える学校が協力し、国家試験の傾向、学生の能力・動向といった情報を収集・分析します。合格に最適なカリキュラムと学習法を構築し、全員合格を目指して国家試験に向けた授業のサポートを行います。
マネジメント研修	マネジメントに携わるマネージャーを対象に研修を行ない、学校運営マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と学生と接点を持つ全教職員に対して、2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識や技術を活かし、学生カウンセリングを行なっています。
OJT トレーナー研修	新入職者に対してのトレーナーとして、必要なマインドやスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行なっています。

### ⑤学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。  
そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 ヶ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育という考えのもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適性に合わせた進路支援ができるよう研修を行っています。
学科の教員に対する研修	ウェディング・ホテル業界の最新の専門知識を取り入れ、あるいは教授力の向上を図る為、学内での研修を企画し、また学外の研修に参加しやすい環境を整えています。

## 本年度の重点課題

### ●3年制教育で一人ひとりに合った将来を実現

- ・TOP ウェディングゼミ  
業界 TOP の現役プランナーなどによるゼミ形式での授業(少人数制)
- ・コース選択制  
入学後に将来の志望に合わせて選べるコース選択制
- ・選択制授業  
選択制授業で自分の好きな授業が取れる
- ・目的別就職対策講座(少人数制就職対策)  
目指す就職先分野別(ホテル・専門式場など)での就職対策

### ●実践型授業で提案力を養う「集大成プログラム」

- ・ウェディングプランナー科：産学連携で行う「結婚式運営」
- ・ウェディング科：①ハウスウェディング ②ドレスショー

### ●学生一人ひとりに合わせた組織運営実践型授業で提案力を養う「集大成プログラム」

- ・ウェディングプランナー科：1年生担任 2・3年生チューター制
- ・ウェディング科：チューター制

学科担当者以外にも各種チューターとなり、学生が相談しやすい環境を作る

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)にしています。</p> <p>建学の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実学教育</li> <li>②人間教育</li> <li>③国際教育を実践し、</li> </ul> <p>4つの信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学生・保護者からの信頼</li> <li>②高等学校からの信頼</li> <li>③業界からの信頼</li> <li>④地域からの信頼</li> </ul> <p>を得られるよう学校運営をしています。</p> <p>上記、建学の理念に基づき、東京ウェディング・ホテル専門学校は、少子化社会、結婚式に対する意識変化に伴うナシ婚層の拡大といったウェディング業界が抱える課題解決に対応でき、かつ業界で長く活躍することが出来る人材の養成を行う事を目的として3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)を定め、学校運営を行っています。</p>	<p>先に挙げたミッション、建学の理念、4つの信頼に関しては、学園全体のものとして今後も継続して掲げ、さらに徹底を図っていく。</p> <p>本校の特色である3年制教育の内容を一層充実させて、ウェディング分野のオンリーワンの学校を目指していく。</p>	<p>1、実学教育</p> <p>スペシャリストが求められる時代に即し、即戦力となる知識・技術を教授しています。プロ意識を持った『即戦力として仕事ができる人材』を、各業界との連携のもと「各々の業界に直結した専門学校として」養成しています。</p> <p>2、人間教育</p> <p>日頃の学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。学内には、『今日も笑顔で挨拶を』の標語が掲示されています。「笑顔であいさつ」を習慣にする指導にとりくんでいます。授業や研修等の様々なカリキュラムを通じて基本的なマナーはもちろんのこと、各々の職種で必要とされる、プロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人育成に力を入れています。</p> <p>3、国際教育</p> <p>自国を知り、異国を知る。それぞれの比較を行う事から視野の広がりを促し、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	5	<p>教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。</p> <p>また、学校 HP の情報公開ページにも記載されており、広く保護者、関連業界等にも示している。</p>	理念・目的・育成人材像を日々学生が意識して学修できるよう今後も継続していく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則</li> <li>・入学案内</li> <li>・教育指導要領</li> <li>・学生便覧</li> <li>・担任マニュアル</li> <li>・ホームページ</li> </ul>
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	5	<p>学科毎に「養成目的(卒後数年後の姿業界のニーズ)」を定め、学生便覧・教育指導要領に記載している。</p> <p>教育課程編成委員会からの意見聴取の他、業界訪問や講師との意見交換を活用している。</p>	業界の早い変化に対応して、それに適合した内容をカリキュラムに反映していくことを実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画</li> <li>・入学案内</li> <li>・教育指導要領</li> <li>・学生便覧</li> <li>・ホームページ</li> </ul>

1-1 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		専任・兼任ともに関連業界で活躍する人材を採用できている。 学外の現場実習においては、業界連携を図りながら、全ての学生が滞りなく実施することが出来ている。 教材選定も業界の最新状況を踏まえリストアップしている。	教材についてはコースや科目選択において費用が嵩む場合がある。学生負担を軽減するために教材の選定は毎年見直ししていく。	教職員、講師とで授業内容を鑑みて適切な教材を選定していく。また、学園の教材サポート企業の協力も得ていく。	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取組んでいるか	5	事業計画に規定している「産学連携教育」と「3年制教育」で他の専門学校にない教育をおこなっている。	3年制教育のメリットがまだ十分に認知されていない。	オープンキャンパスでのメリット周知に加え、就職実績や卒業生の活躍等でアピールしていく。	・入学案内 ・保護者向業界案内
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3～5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	5	毎年事業計画を作成し、5カ年計画を見直している。事業計画の研修会には全教職員が参加し、組織目的や運営方針の理解を図っている。  オープンキャンパスや企業訪問等で学生・保護者・関連業界等に学校の方向性を知らせている。			・事業計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理念・目的・育成人材像は教職員研修にとどまらず、日常業務でも全職員が意識して業務をおこなうように意識づけしている。また、常に業界の動向やニーズを吸い上げて教育に反映できるように取り組んでいる。	養成目的(業界が求める人材像)と教育目標(卒業時の学習到達状況)を定めて、学生便覧に記載し、学生へも周知して教育に取り組んでいる。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>社会環境の変化に対応できるよう事業計画については、長期(5年)、中期(3年)、短期(1年)を展望し、次年度事業計画を作成しており、毎年作成する事業計画が学校運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、毎年3月の初旬、学校の事業計画の研修を行い、全教職員へ周知徹底を図る。</p> <p>事業計画において、組織図、職務分掌、各種会議の意思決定システム(コミュニケーション一覧)が明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われている。事業計画書の組織図には、学校に関わるすべての人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校運営に際し、毎週定例の会議以外にもツールボックスミーティング等、即時、適宜にミーティングを行い、常にコミュニケーションを図ることを重視している。</p> <p>中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、分野・スキル・階層による研修を充実させ、マインド面とスキル面の向上を図っている。</p>	<p>毎年、自己点検・自己評価、学校関係者評価を実施し、かつ、学校運営上の課題や問題が発生した場合は、適宜かつ迅速に対応している。</p> <p>今後は第三者評価の受審も見据えて運営内容を整備していく方向である。</p>	<p>事業計画の構成</p> <p>①組織目的 (普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)</p> <p>②運営方針 (中期的に組織として目指していく方針)</p> <p>③実行方針 (中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針)</p> <p>④定量目標 (受験者数、教育成果(中途退学者数、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等))</p> <p>⑤定性目標 (人材育成や組織のあり方等定性的な目標についての単年度目標)</p> <p>⑥実行計画 (その方針を実現するための詳細な計画)</p> <p>⑦組織図 (単年度)</p> <p>⑧職務分掌</p> <p>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</p> <p>⑩職員の業績評価システム</p> <p>⑪意思決定システム</p> <p>⑫収支予算書 (5ヵ年計画)</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-2 (1/1)  
2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	5	事業計画の中で運営方針を明記し、定量目標・定性目標を達成するために、更に実行方針、実行計画を明記している。  事業計画は毎年3月の初旬に全教職で研修を行い、周知徹底している。	特になし		・事業計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていくと考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努める。</p>	<p>学校運営の核をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉えている。それらを確実に遂行していくために、マネジメントスキルならびにリーダーとしての運営能力の向上研修を重視している。この考えは、マネージャーは組織運営者であることを前提としているからである。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-3 (1/1)  
2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画(3~5年程度)を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	5	<p>学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。</p> <p>また、事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。</p> <p>その上で、職場運営が実行されている。</p>	<p>事業計画に基づく運営を実施していくためには人材の育成が大切である。</p> <p>マネージャーの能力向上とともに次世代を担うリーダーやスタッフ育成が重要となる。</p>	<p>会議・研修、OJT等を通じて人材育成を図っていく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて注力している。</p> <p>また、学校運営を担う人材育成を大切にしている。</p>	<p>事業計画を教職員が自立的に計画し、決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されている。</p> <p>その運営のチェック機能として、</p> <p>①学園の理事会議、②グループでの戦略会議(月次:運営責任者会議)、③運営会議(隔週:全学校常勤職員)と部署会議(隔週:部署・チーム)があり、都度計画遂行の確認を行っている。合わせて問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-4 (1/2)

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	理事会、および評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録は適切に作成されている。定例の開催日程を毎年決定している。なお、寄附行為は必要に応じて適正な手続きを通して改正されている。			・理事会議事録 ・評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	運営組織は、実行計画の最適化の観点から毎年見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図・職務分掌・会議研修一覧に示されている。運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。			・事業計画 組織図(単年度) 職務分掌 ・就業規則

## 2-4 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	<input type="checkbox"/> 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		業務能力の向上のため、学園本部主催の研修を中心に受講させている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定を細部に渡り行うことで、目標達成志向性の高い組織運営が行われている。 事務職員も多くの研修参加の機会をもっている。	組織運営については明確に定められている。一方で、サッカー型運営を教職員に意識づけしており、学校運営において部署間で協力して取り組む文化が根付いている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-5 (1/1)

## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	5	採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準のもと、厳正に実施している。 目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。			・人事管理システム ・就業規則

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。 採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。加えて目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定を行っている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も評価できるようプロセス評価や情意考課評価を導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できるかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-6 (1/1)

## 2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	5	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。また意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いも重視されている。	会議等の決定事項において個々人の満足度や納得感の差がでることがあるので、個別のフォローも大切にしている。また、上位会議での決定事項の迅速なフィードバックを継続していく。	上位会議等の決定事項では、決定事項の背景や意味合いを全体運営会議等でフィードバックしていく。	・事業計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして共感してもらうことに、年間を通じて注力している。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議等で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていくと考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努めていく。</p>	<p>会議は下記のように運営している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人理事会・評議員会: 学園運営における最高議決機関</li> <li>2. EAST 戦略会議: 運営方針の起案会議</li> <li>3. 分野毎戦略会議: 上位会議情報の伝達、現況の確認と課題発見、対策、立案、進捗報告</li> <li>4. 全体運営会議: 学内全スタッフとの共有・議論・具体的なアクションプランの決定 部署別会議: 部署ごとの問題解決への議論、またはより細かい進捗や企画の共有</li> <li>5. 各種プロジェクト会議: プロジェクトの目的・目標達成に必要な機会・問題発見解決会議</li> </ol>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

2-7 (1/1)

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に(学生情報管理)システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	5	<p>専門学校基幹業務システムにより管理。入学前から卒業後までの情報を上記システムにより一元管理を行っている。</p> <p>また、実務では学園独自の業務システムを構築し、教職員が広報、教育、就職の業務に日々活用し、学生指導にも効果的に使用している。</p> <p>学生への連絡や情報提供、資料配布はマイクロソフトのTEAMSを活用している。</p> <p>システムメンテナンスおよびセキュリティはグループ関連専門企業が適切に管理をおこなっている。</p>	<p>業務システムの導入などでシステム環境は充実している。</p> <p>今後は教職員の活用スキルの差を極小にしていくことが求められる。</p>	<p>研修やOJT等でスキルの向上を図っていく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>業務のマニュアル化とシステム化の推進と、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、利便性が高く、効果的な情報システムを構築できている。</p>	<p>職員間の情報やデータの共有ではサイボウズGaroonを使用して、効率的かつ効果的に業務をおこなえる環境を整えている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

### 基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育活動においては、本校学園グループの建学の理念から、→開校の目的→養成目的・教育目標→学年・学期目標→科目到達目標→コマ授業到達目標までが、一貫している重要性を認識して、授業、学校運用を行っている。</p> <p>ウェディング分野の特徴である早期就職活動のスケジュールと、教育スケジュールとの両立を図るべく、全学科3年制教育へと移行を図っている。</p> <p>2023年度に3年制へ移行したウェディング科では、科目選択制の学び方を導入し、幅広い職種をカバーするウェディング分野の特色を踏まえ、自コース+αの学びを自由に組めるようカリキュラムを行っている。</p> <p>教育課程の編成の際には、教務キャリアセンター部がカリキュラム会議を開催し、学科の課題、業界、競合他校の調査・分析を実施してから、編成作業を実施する。</p> <p>具体的な取り組み事例として、ウェディングプランナー科では業界初のプランナーアシスタント実習を実施。従来の結婚式運営に関するアルバイト実習ではなく、業務委託契約の元、平日も含めてインターンシップを行いプランナーの仕事の全体像を学ぶ形式が特色となっている。</p> <p>教育DXとして、ICTツールの導入を推進。学生1人に1台のPCデバイスでマイクロソフトのTEAMSを活用している。授業資料の閲覧、課題の配付・回収と、オンライン授業を実施。自ら情報を得ようとする主体的な姿勢を育む仕掛けとしている。</p>	<p>キャリア教育の年間フローの中で、個々人のキャリアをしっかり形成すべく、担任の授業『キャリア教育講座』を通して学生の自律・協働のマインドを育む。</p> <p>ウェディング業界の就職活動のペースに対応するため、2023年度からは全学科3年制学科へ移行。ウェディング科のカリキュラムも大幅に学び方のイノベーションを図っている。その教育システムを実運用ベースにのせ、業界へあらたな可能性を持った人材として評価していただけるような卒業生を輩出することが今後の課題である。</p> <p>一人1台のPC・タブレットを持参必須として、学生のICT教育を進めている。</p>	<p>ウェディング分野の専門学校の特色として、高校生までの間で具体的な職業像を把握することが難しいというものがある。これはそもそも結婚式が身近ではないため、マスコミやメディアで取り上げられる表面的な職業イメージ(例:WPはお客さんと打合せ、本番施行の司令塔など)が先行してしまうことによるものである。</p> <p>実際に本校のオープンキャンパス参加者も参列経験では、中学生以上で参列した割合は低い。</p> <p>もう一方で、ウェディング分野には業務独占資格が存在しないため、専門学校における目的・目標設定が非常に重要な役割を果たす。</p> <p>そのため</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全体的なウェディングのビジネスモデルを教える</li> <li>②それぞれの職種の具体的な業務内容を教える</li> <li>③職種と職種間のリレーションがどう取られているかを教える</li> <li>④仕事の意義、やりがいについて伝え続け考えさせるが要諦であると考えている。</li> </ol> <p>また、就職活動は大学生と同じ採用スケジュールに乗っかる必要があり、卒業年次の前の年の11月頃から就活が本格化していく。2年制ではその準備教育が性急に行われるため、動機づけ教育や、就職内定後の燃え尽き症候群が問題点となっていたが、今後は、全学科で3年制のメリットを活かした就職活動を見据えていく。</p>

3-8 (1/1)

### 3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	5	毎年、事業計画において教育課程方針をさだめている。また職業教育方針については、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを定めている。	各ポリシーを具現化するために引き続き業界との協力体制を維持・強化する必要があると考えている。	教育課程編成委員会でのより一層の業界意見の取入れ、業界講師からの情報収集を一層積極的におこなっていく。	・学生便覧 ・教育指導要領 ・キャリア教育ロードマップ
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	5	教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年、学期目標」を学生に明示している。 また資格取得指導、支援体制も学年暦や時間割において明示し、教育活動を実践している。 資格取得を目指す授業では講師の選定に留意している。			・学生便覧

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育指導要領、学生便覧において、教育編成の方針、教育到達レベルについては明示されており、2019年より HP の情報公開ページには全科目のシラバスを公開している。資格取得に対する指導、支援体制、対策スケジュールも学年歴の中に設定され、資格合格率の向上を図っている。	学生は必須資格だけでなく、選択により希望する資格を取得することができる。このことで就職後の仕事だけでなく、在学中の学習モチベーション維持にも効果がある。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	5	<p>教育課程の編成においては、カリキュラムポリシーによって関連性・位置づけを決め、業界・学科情報を反映させ、より業界のニーズに応えた編成を行なっている。</p> <p>教育課程の編成は 学科会を経て運営会議で授業形態や講義・演習・実習などの配置も含め、定期的に会議の中で運営状況をチェックする。</p> <p>また、教育課程編成委員会を年 2 回開催し、専門の委員より教育課程への提言を頂いている。</p> <p>また、終了に係る授業時間数、単位等に関しては、学生便覧に明記してある</p>	<p>教育課程の編成では、業界のニーズや動向を反映するのは当然であるが、現状のみでなく将来を見据えた考えも必要となる。</p> <p>また、ウェディング分野では現場実習が学修成果へ大きく関わってくることから、学生のニーズと特質を鑑みた実習先の選定や学習指導が重要となる。</p>	<p>教育課程編成委員会では委員各位に将来を考えた意見も積極的に提供していただく促しをおこなっていく。</p> <p>実習開始前に専任教員が主体となり実習前の授業内容の充実を図っていく。</p>	学生便覧

## 3-9 (2/3)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているかを <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		<p>シラバス、コマシラバスを作成しシラバスは公開している。また、学生はTeams上にアップしたものを閲覧したうえで授業に臨んでいる。</p> <p>教育課程は教育内容改善のため適宜見直しをおこない、理事会・評議員会の承認後、学則変更をおこなっている。</p>	<p>ウェディング科の1年次の選択授業では、入学してから科目選択までの期間が短いため、指導に労力がかかる。</p>	<p>ウェディング科では 2026 年度のカリキュラムで選択科目を含む履修方法の見直しをおこなう。</p>	・学則
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	5	<p>教育課程編成委員会を年2回開催しており、業界の意見を積極的に取り入れている。</p> <p>卒業生や就職先の意見に関しては、同窓会や業界訪問を通じて意見の聴取を実施している。</p>	<p>卒業生・就職先からの意見聴取等は常時実施しているが、人事異動等も鑑みて多くの教職員がこのスキルを取得できるようにすることが必要となる。</p>	<p>入職後のキャリア歴が短い教職員への人的ネットワーク継承をおこなっていく。</p>	

3-10 (3/3)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	<p>「キャリア教育ロードマップ」に基づき、入学前(キャリア形成)から卒業後(キャリア開発)に至るまでをフローで捉え、各段階でのキャリア教育の実践を行っている。</p> <p>担任によるキャリア教育講座授業を設置している。</p>	<p>勤労観・就業意識の育成、個々人の具体的なキャリアプラン構築への働きかけと、自立(自律)支援のあり方が課題。</p> <p>学生が就職希望をしない状況を生じさせないように引き続き取り組んでいく。</p>	<p>担任の授業『キャリア教育講座』を通して学生の自律・協働のマインドを育むため、指導と支援をバランス見ながら実施している。この内容を効果測定して見直ししていく。</p>	<p>キャリア教育ロードマップ</p> <p>キャリアプランシート</p>
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	3	<p>授業評価については、教務部長や学科長が授業を見学し講師とコミュニケーションを取りながら改善に向け協働を行っている。</p> <p>上記とは別に、年に1度非常勤講師と教務責任者との面談を実施し、授業改善の検討を行っている。</p>	<p>授業の質的向上は恒久的な課題である。</p> <p>特に新任講師や、業界現役プレイヤーの講師にとっては学生観やレベル感を掴むことが困難であり、学習者に適切な授業展開をすることが難しい。</p>	<p>姉妹校で実施している授業アンケートの導入を検討し、担当講師へフィードバックで授業内容向上を目指していく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>就業意識を植え付け、現場実習→就職活動へスムーズに移行できる教育システムとしての「キャリア教育ロードマップ」を構築している。就職を希望しない学生を無くしていく取り組みをおこなっていく。</p>	<p>学園グループで「キャリア教育ロードマップ」を策定している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

3-10 (1/1)

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	5	単位履修、成績評価については、学生便覧内の学則施行細則にて、全学生に配付、説明を実施している。 また運営会議、進級判定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。 他の教育機関の履修認定については学則で定めている。	GPA の活用による授業難易度と成績分布の分析をおこなっていく必要がある。	GPA を活用して科目ごとの課題点をみつける契機としていく。	・学則 ・学則施行細則
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	外部コンテストのエントリー等も担任を通じて把握している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則によって明文化されており、「教育指導要領」及び「学生便覧」に明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。	科目について6段階評価を行う。A・B・C・Dを合格とし、E・Fを不合格とする。 A (100～90点) B (80～89点) C ( 70～79点) D( 60～69点) 合格 F ( 59点以下) E 出席不良 不合格 出席時間数の10分の7に満たない場合は単位認定をおこなわない。 また、学業結果を総合的に判断する指標として「GPA」を導入している。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

3-11 (1/1)

### 3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	5	取得目標資格それぞれの意義に向けての内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧</li> <li>・入学案内</li> </ul>
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	5	担当講師と資格試験対策について打ち合わせを行い、通常授業外の時間を設け、直前対策授業を組んでいる。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
取得できる資格の内容、意義、将来の活用などは学生に明確に伝えている。資格関連の授業も教育課程やシラバスで明示している。合格率向上に向けた指導をおこなっている。資格取得ではブライダルコーディネイト技能検定は特に力を入れて対策を取っている。	2024年度入学者は最大で18の資格取得が可能である。将来の仕事を見据えて選択できるようになっている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

3-12 (1/2)

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
<p>3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか</p>	<p><input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか</p> <p><input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか</p> <p><input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか</p>	<p>5</p>	<p>科目の到達目標に合致する実務経験または教授歴を持つ者が担当講師となるよう、履歴書、職務経歴書、資格証、卒業証明書などの必要書類の提出と面接をし、採用している。事業計画において教員採用計画を立案しており、それに基づき実施している。</p> <p>また、教授力を高めるための、研修や勉強会を毎年実施している。</p> <p>現場実践力と教育の質の観点からほとんどの講師を実務家教員としている。</p> <p>企業と連携して講師を出していただいている。</p> <p>採用時および採用後の講師会議では学校の考え方や学科方針を理解していただく機会をつくっている。</p>	<p>現場経験が豊富でも魅力的な講師でも教育歴がない場合は授業方法などのアドバイスが必要になる。</p> <p>併せて、シラバス作成や成績表についても個々に応じたサポートをおこなうことが必要である。</p>	<p>新任講師は研修だけでなく、常勤職員が適宜に相談に応じる体制をつくっている。</p> <p>現状は授業中の学生に課題があった場合は、担任や学科長にすぐに相談・報告できる関係を構築できている。</p> <p>本校で学生時代を経験した卒業生講師を増やしていける環境になりつつある。</p>	

3-12 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	5	<p>全教職員に対し、教職員教育機関である滋慶教育科学研究所の段階別研修が義務付けられている。</p> <p>新任講師には学園で就任前に集合研修を実施している。</p>			
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか	5	<p>規定の教員数にとどまらず、高い学習効果のため十分な教員数を確保している。</p> <p>教員組織は事業計画で明記している。</p> <p>授業内容の共有は該当教員間でおこない、授業開始前、授業の進行状況に応じて学科長責任のもと担任主体でおこなっている。</p>			・事業計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教員の組織体制は規定されている。学科長および担任が兼任講師との連携を日々とっており、問題や課題に迅速に取り組める体制にある。</p>	<p>教職員の教育力向上を担う研究機関として学園で「滋慶教育科学研究所(JESC)」を設置し、教職員の研修をおこなっている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)												
<p>本校では教育成果の指標として、(1)専門職就職率 100%、(2)主力資格の取得率を掲げている。</p> <p>(1)専門職就職 100% 学んだ知識や技術、取得した資格が活かせる業界への就職のためキャリアセンター(就職支援専門部署)を設け、求人票の獲得や内定獲得の為に教育プログラムの構築を行なっている。</p> <p>2024年度はウェディング科が修業年限を2年から3年に変更したため、卒業生はウェディングプランナー科のみの年度であった。</p> <p>卒業生のうち就職希望者は31名で、この31名は専門職就職ができています。</p> <p>(参考)2023年度</p> <table style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>卒業生数</th> <th>就職希望者数</th> <th>専門職就職数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プランナー科</td> <td>36名</td> <td>32名</td> <td>32名</td> </tr> <tr> <td>ウェディング科</td> <td>71名</td> <td>65名</td> <td>65名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)資格取得実績 最重視しているブライダルコーディネーター技能検定 3 級(国家検定)の2024年度合格率は 87.5%(35名/40名)と高い合格率であった。 本校では約 15 種の資格が取得でき、資格対策授業の内容充実を図っている。</p>		卒業生数	就職希望者数	専門職就職数	プランナー科	36名	32名	32名	ウェディング科	71名	65名	65名	<p>2024年度はウェディングプランナー科のみの就職支援であったが、2025年度は3年制課程となったウェディング科の就職支援も加わる。</p> <p>ウェディング業界の就職活動時期は早まってきており、卒業の1年半前から就職活動が始まる状況にある。一部では更に前倒しをするケースも散見される。 このような状況で2年制ではなく3年制課程のメリットを活かした就職支援をおこなっていく。</p> <p>2024年度は実家が自営業の学生1名のみ就職未希望であったが、2025年度からは2023年度の課題であった就職未希望者の低減を正社員で働くことの重要性など就職への意識を実習も活用して高めていくことが重要である。</p> <p>ブライダルコーディネーター技能検定 3 級の合格率の一層の向上と、他の資格試験の合格対策の検証をおこなっていく。</p>	<p>2025年度は卒業生全員が3年制課程である。就職活動の早期化のなか、他の学校より1年多い学びの成果を就職に活かせると思う。</p> <p>また、単に就職するというだけではなく、正社員でかつ、学生個々に合った就職を決定していくこと重視していく。</p> <p>開講以来、9年連続で就職希望者内定率は 100%を継続している。</p> <p>プランナー系の資格だけでなく、ホテル系、ドレス系、ヘアメイク系、フラワー系、フォト&amp;ムービー系、ビジネス系の資格取得ができる。</p>
	卒業生数	就職希望者数	専門職就職数											
プランナー科	36名	32名	32名											
ウェディング科	71名	65名	65名											

最終更新日	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
-------	-----------	-------	-------

4-13 (1/1)

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	5	<p>以下の7つの項目で毎月末数字を確認。キャリアセンターが資料を作成し、教職員全員で共有している。</p> <p>①卒業年次在籍者数   ②就職希望者数   ③求人件数(職種別・有効求人数)   ④内定者数(学科ごと、月ごとと累計)   ⑤専門就職者数   ⑥月別内定シミュレーション   ⑦学生就職活動状況表</p> <p>就職試験先ごとの特性・特徴に応じたアドバイスを受験する学生におこなっている他、ブライダル企業やホテルなどの学内就職説明会を開催し、内定獲得サポートをおこなっている。</p>	<p>就職未希望者を限りなく出さないようにする取り組みをおこなっていく必要がある。</p> <p>採用計画が前倒しになっていることへ3年制のメリットを活かした取り組みをおこなっていく。</p> <p>大学生にも負けないように就職試験対策をおこなっていく。</p>	<p>就職活動に十分な準備ができるように、入学時から担任授業のキャリア教育講座で就職の意識づけをおこなっていく。</p> <p>キャリアセンターと担任との連携をより密にして、情報共有をおこない学生個々に合わせた支援をおこなう。</p>	・事業計画

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>就職支援は業界との窓口であるキャリアセンターと担任の双方で個別支援をおこなっている。また、学内に業界を呼んでのセミナーもおこなっている。</p> <p>就職状況は毎月、全体会にて教職員全員で把握している。</p>	<p>開講以来、9年連続で就職希望者の内定率は100%である。</p> <p>就職指導では単に内定を取ることでなく、学んだ専門分野で正社員で就職することを前提としている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

4-14 (1/1)

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4	<p>ウェディングプランナーを目指す学生の目標となっている「ブライダルコーディネーター技能検定 3 級(国家検定)」については、87.5 % (35/40)の合格実績を出すことが出来た。</p> <p>毎年、資格取得を目指す授業を担当する講師とは前年度実績や学生状況を踏まえて授業内容の検討・改善をおこなっている。</p>	<p>必須だけでなく、選択で資格取得をおこなえるため、すべての受験する資格への学習モチベーションの維持をおこなっていく必要がある。</p>	<p>授業内容だけでなく、選択する際のアドバイスを教職員がしっかりとおこなっていく。</p>	・募集要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>全学生が必要な資格を取得することを目標としており、担当講師と複数年計画で対策を行うことで、高い合格実績を挙げられた。国家検定については、世に対策テキストが出回っていないため、独自の問題集の作成、オリジナル映像問題の作成など対策を重ねており、成果につながっている。</p>	<p>選択を含めて18の資格を取得できる。ドレス、フォト&amp;ムービー、パーソナルカラー、ホテルビジネス実務、フラワーアレンジなど関連の資格が多数あり、将来の目指す方向を見据えて選択できる。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

4-15 (1/1)

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒業後の実態を調査等で把握しているか  <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>毎年5月に卒業後1年間の離職率調査を就職先企業、卒業生と連携を取り行っている。2024年3月卒業生の1年以内の離職率は13.4%であった。</p> <p>離職せず、定着している卒業生の業界評価は高く、縦につながる伝統を形成されている。</p>	<p>例年1年後の離職率は10%前半が多いが、左記の年度ではコロナ過明けの人材不足から勤務過多となったケースが多く数字が高くなった。</p> <p>奨学金を利用した学生への在学中のマネープラン、ライフプランを意識した講座等を充実することも必要である。</p>	<p>卒業生ネットワークを構築する仕組みづくりの一端として、2018年度より卒業生委員を巻き込んだ同窓会組織運営を行っている。このなかで就業意欲に関するモチベーション向上のプログラムを組み入れていく。</p> <p>在学中に社会人基礎力を養う授業を取り入れていく。業界講和やキャリアプラン、マネー講座も鳥取り入れていく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生の社会的評価の指標として、卒業1年後の離職率を取り入れている、現状は10%前半が多いが、在学中のキャリアプランに関する授業や同窓会の内容を改善していくことで離職率減少に取り組んでいる。	卒業1年後の離職率を把握することは学園方針で実施している。卒業後の就職や転職相談もキャリアセンターで対応できる体制がある。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生支援は、①就職②学費③学生生活④健康等の面において行っている。支援を行うにあたり、それぞれに対応できる担当部署や専門担当者を置いている。</p> <p>就職(キャリアセンター) 在校生から卒業生まで幅広くキャリアアップ支援(就職支援、生涯学習支援)をしていく。キャリアセンターは「入学した学生の専門職就職を実現する」ことを目標としている。</p> <p>学費(学生サービスセンター) 学費納入を支援する分納制度を入学前から紹介し、学費困難からの入学辞退や退学者が出ないように支援を行っている。学内にはアドバイザーが常駐しており、様々な学費相談に対してのフォローを行っている。</p> <p>学生生活(担任またはチューター、学生寮本部) チューター制度(一部クラス担任制度)をとっており、学校全体で学生生活の相談を受ける体制を取っている。学生が相談しやすいチューターを選んで相談できる環境を作り、総合的に学生支援を行っている。また、寮の学生に対しては、学生寮本部の生活アドバイザーが24時間体制で生活指導を行っている。</p> <p>健康(慶生会クリニック、滋慶トータルサポートセンター) 学園グループが運営する慶生会クリニックにて健康相談や歯科、内科の受診を行っている。また、メンタル面に不安を抱える学生は学園の学生相談室である滋慶トータルサポートセンターにてカウンセリングを受ける事ができる。</p>	<p>就職(キャリアセンター) 担任と連携を取りながら、進路カウンセリング及び受験指導、企業折衝を行っているが、ウェディング分野の就職活動時期の早期化に対応した支援を3年制であるメリット活かしつつ入学時からクラスおよび個人に実施していく。</p> <p>学費(学生サービスセンター) 2025年4月からの高等教育の修学支援新制度の拡充により多子世帯が授業料減免の対象となるが、学生や保護者が制度を理解しづらいケースが多く、周知方法を改善していく必要がある。</p> <p>学生生活(担任) キャリアサポートアンケートの結果から、学生の傾向に応じた支援をできるように担任力の向上を一層図っていく必要がある。</p> <p>健康(慶生会クリニック) 健康診断の受診は必須だが、健診で再検査対象となった学の2次健診率の向上を図る必要がある。</p>	<p>教務(担任またはチューター)、キャリアセンター(就職・実習担当)、学生サービスセンター(学費・奨学金・健康管理)の3者が連携して学生を支援する体制を構築している。</p> <p>学生寮は学園本部に学生寮本部があり、葛西地区では17の寮を運営している。しっかりとしたセキュリティー環境のなか、寮長が常駐しない寮でも、学生寮本部が相談に応じる体制となっている。</p> <p>学園グループで内科・歯科を診療科とする慶生会クリニック、専門家がメンタルサポートを担う滋慶トータルサポートセンターを運営している。</p> <p>全教職員が「JESC認定教員カウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち学生相談にあたっている。カウンセリングマインドを持った対応を行いながら、専門のカウンセラーや支援部署へ適切なタイミングで繋いでいる。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-16 (1/1)

## 5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	<p>学生のサポート体制としては、チューター制度(一部担任制)を取ることで、学校全体で学生支援にあたっている。就職活動期には、授業の中で活動状況表を提出してもらい、学内データとして共有している。</p> <p>業界との連携を密にとるべく、積極的に学内外での企業説明会・現場見学会を実施。希望者には早期の有給インターンシップを案内し、就職に有利になるよう働きかけを行っている。</p> <p>また就職対策授業では履歴書・面接練習を個々の進捗に合わせ実施している。</p> <p>学内での業界セミナーを開催している。</p>	<p>就職活動の早期化に対応した就職支援を実施していくことが必要となる。</p>	<p>就職サポートについては、求人開拓とサポート強化の両面から対策を行う。</p> <p>引き続き、学生へ正規雇用の必要性についての、早期の動機づけと啓蒙を行っていく。</p> <p>3年制になる事で、自身の将来について考える時間をカリキュラムの中でもしっかり設けられるようになり、就職内定がゴールではない動機づけに繋げていきたいと考えている。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>各部署および担当が連携した就職支援体制は確立している。就職希望先に応じた採用試験合格につながる履歴書や面接指導をおこなっている。学生の就職活動状況は学内で共有している(毎月の教職員全体会議でも共有している)。</p>	<p>2024年度は卒業生32名中、31名が学んだ関係分野に正社員として就職した(2024年度は修業年限の変更により卒業生はウェディングプランナー科のみ)。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-17 (1/1)

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	<p>学園グループで統一の退学要因分析フォーマットに基づき要因別の退学者数を把握している。</p> <p>定期的な面談を実施し、業務システムを活用して記録を残し、関係者が情報共有できる。</p> <p>学科内での連携は勿論、学生サービスセンターなど他部署との連携を実施している。</p> <p>心理的に専門家のサポートが必要な学生は学園の専門部署の「滋慶トータルサポートセンター」につないでいる。</p> <p>スタッフは全員、学園内のカウンセラー資格取得をする。</p>	<p>2024年度の退学者数は2023年度と同数の12名であった。</p> <p>総学生数から退学率は4.8%から5.2%と少し上昇した。</p> <p>退学者12名のうち、11名がウェディング科であり、学科間の差異が大きかった。</p>	<p>退学理由では精神面での理由と目的喪失が多かった。</p> <p>ウェディング科は職種選択の幅が大きいことがメリットだが、反面、目的喪失を起こしやすくもある。</p> <p>入学時からモチベーションを高める取り組みをおこなっていくとともに、3年間のフローで教育を捉え、ハウスウェディングやドレスショーなどの大きなプログラムに向けて自己の学修した力を反映させ学ぶ意欲が減退しないようにしていく。</p>	・業務システム

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生状況の把握は常時おこなっており、記録も業務システムを通して共有できる。学科間の退学者数の偏りが大きく、ウェディング科での目的喪失の学生を減らす取り組みをおこなっていく。メンタル面で課題がある学生については滋慶トータルサポートセンターとの連携を密にしていく。</p>	<p>学園で複数の心理カウンセラーが常駐する滋慶トータルサポートセンターを運営し、学校と連携を取りながら、学校では対応が難しく専門家の介入が必要な学生をサポートする体制がある。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-18 (1/2)  
5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	5	<p>学園として滋慶トータルサポートセンター(JTSC)を設置して、精神面で不安がある学生をカウンセラーが対応している。</p> <p>相談室に関しては Web 上の HP と URL や連絡先が記載されているカードを全学生に配布している。守秘厳守とし、データにて管理している。</p> <p>学園付属の医療機関として、医療法人社団慶生会慶生会クリニックを運営している。</p> <p>全学生に対してキャリアサポートアンケートを実施し、学生相談室の利用希望を調査している。</p>	多様化、複雑化している退学要因に対応できる外部との連携体制はできているが、学内のスタッフのカウンセリング力の向上も必要である。	キャリアサポートアンケートの分析と対応方針を学科長を中心に検討するとともに、入職が浅い職員へのカウンセリングの OJT をおこなっていく。	・キャリアサポートアンケート
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4	現在、留学生は在籍していない。	今後、留学生が入学した場合、留学生対応の経験がない教職員も在籍している。	留学生の入学希望があった場合は学校説明会等で経験がある職員が OJT をおこなうなど対応できる人員を増やしていく。	

## 5-18 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>JTSCを設置し、メンタル面で不安のある学生をカウンセラーが対応できる体制にある。 キャリアサポートアンケートを元に学生の問題発生傾向を早期に把握できるようになっている。 留学生の受け入れについては入学希望があれば対応していく。</p>	<p>全教職員がカウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう、学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC 認定教職員カウンセラー資格」を取得させ、カウンセリング技術の統一を図っている。</p>

学校独自の奨学金はないが日本学生支援機構の奨学金を中心に学生および保護者に奨学金制度をわかりやすく案内している。

日本学生支援機構の奨学金を活用した授業料分納制度をおこなっている。

入学予定者に対しては予約採用での給付奨学金対象者や多子世帯へは必要に応じて延納を認めている。

学費・奨学金については学生サービスセンターが窓口となり、相談および現状把握をおこなっている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-19 (1/2)  
5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	5	<p>学校独自の奨学金はないが日本学生支援機構の奨学金を中心に学生および保護者に奨学金制度をわかりやすく案内している。</p> <p>日本学生支援機構の奨学金を活用した授業料分納制度をおこなっている。</p> <p>入学予定者に対しては予約採用での給付奨学金対象者や多子世帯へは必要に応じて延納を認めている。</p> <p>学費・奨学金については学生サービスセンターが窓口となり、相談および現状把握をおこなっている。</p>	2025年度より高等教育の修学支援新制度の拡充がおこなわれ、奨学金や授業料減免の制度がわかりにくくなっている。また、対象者の申込漏れを防ぐことも一段と必要となってくる。	奨学金や多子世帯については、学生向けの説明会だけではなく、配布する資料も保護者もしっかりと理解できるものに一層改善していく。	・奨学金案内資料
-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	5	毎年、4月に学生健康診断を実施している。担任と学生サービスセンターが学生への案内と意識づけをおこなっており、一次健診は全員受診している。健康診断の運営は学園の医療機関である慶生会クリニックがおこなっている。	一次健診で再検査になった学生への健診の促し。	担任を中心に就職・実習を意識させ再検査への促しをおこなう。	・年間スケジュール

## 5-19 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		学校医は選任し、校舎内に保健室を設置している。  学生は慶生会クリニック(内科・歯科)を常時利用できる。			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	5	学園でかさい学生寮本部を運営している。  寮生の生活サポートおよび安全配慮は寮本部がおこなっている。			学生寮パンフレット
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	本校独自のクラブ活動はないが、近隣の姉妹校と合同のサークル活動に参加できる(バトミントン、ダンス、フットサル等)。	学生に近隣の姉妹校との合同サークルの案内を年度初めにおこなっている。		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を構築している。	慶生会クリニック、かさい学生寮本部、滋慶トータルサポートセンターなど学校単体では設置できない機関を学園で設置・運営して学生サポートをおこなっている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-20 (1/1)

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<p>保護者への成績発送や出席率について問題のある学生の保護者にたいしては、即座に連絡し連携を取れるようにしている。</p> <p>特に単位未履修が発生する場合や平素の学校生活に問題・課題がある場合は来校またはオンラインでの保護者との面談をおこなっている。</p> <p>緊急連絡先を学生より提出してもらい連絡が取れるようにしている。</p>	<p>保護者の環境も変化してきおり、協力しながら学生の成長を促す体制が取れないケースが出始めている。</p> <p>学校への理解・協力を得られる情報提供を考えていく必要がある。</p>	オンラインでの保護者会の実施などを検討し、保護者と学校との接点を増やしていく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生に何か問題が発生したときには保護者との連絡・連携をおこなっている。今後はより学校を理解していただくために保護者会等の実施を検討していく。</p>	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

5-21 (1/2)

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	3	<p>同窓会については学生便覧に記した通り、委員に就任してもらい組織形成、年1回の同窓会を実施している。 2024年度は8月に実施。</p> <p>卒業生の再就職等の相談はキャリアセンターを中心に随時応じられる。</p>	<p>就職先、実習先、卒業生教員など卒業生とのパイプはあるが、今後は、同窓会を中心に組織化を図る必要がある。</p> <p>卒業生のキャリアアップにつながる講座等は今後、検討していく。</p>	<p>同窓会で卒業生の意見やニーズを把握して同窓会の発展につなげていく。</p> <p>学校が卒業生にどのようなキャリアアップの機会を提供できるのかを卒業生からヒアリングしていく。</p>	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	2	<p>産学連携による卒後の再教育は実施できていない。</p>	<p>具体的な卒業後の産学連携プログラムが確立できてない。</p>	<p>卒業生のニーズ、学校の体制、業界の協力等がどこまで可能かを検討していく。</p>	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	5	<p>本校の学生はほとんどが高等学校卒業後すぐに入学しているため、チェック項目記載に該当する学生は該当者がいない。</p> <p>入学前の履修や長期履修等の定めは学則に記載している。</p>			

## 5-21 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>卒業生に対する同窓会組織の形成は出来ているが、その運用・活用については今後の改善が必要である。</p> <p>学生の現状から社会人を特に意識した取り組みはおこなっていないが、今後、対応が必要な場合は必要な支援をおこなっていく。</p>	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>ウェディング・ブライダルの特化型としての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けさせることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上に繋げている。</p> <p>空調、電気機器等は管理会社により計画的に改修を行っている。また、日常の校舎見回り等は学園関連企業の滋慶ヒューマンサービスに依頼している。</p> <p>学外実習は教育内容・特徴、学生の目指す職種・就職先・ニーズに合わせた設備、環境を整えている実習先を提供している。現場で学び、現場力を身につけるためにも、実習先確保・船体は重要である。</p>	<p>教育環境整備に関しては、事業計画作成の際、5年後までの整備計画を作成しているが、社会状況の変化等にもしっかりと対応するため、毎年見直しをして予算を確保する。</p> <p>IT・DX化の潮流に合わせた授業に対応するため、今後、どのような施設・機材の導入をおこなうか、予算と併せて検討していく必要がある。</p> <p>実習先は沖縄県と単独の専門学校としては初の協定を結んだことや、舞浜エリアでの実習、これまでのネットワーク等から当校の強みとなっているが、今後も養成目的・教育目標に合致し、かつ、学生にとっても魅力的な実習先を確保していく。</p> <p>また、実習におけるネットワークを個人知から組織知にしっかりと移行していくことが肝要である。</p>	<p>(主な施設)</p> <p>第一校舎 R 階:屋上ガーデンチャペル 5 階:大教室(バンケット実習室/図書スペース) 4 階:普通教室 3 階:普通教室 2 階:普通教室 1 階:ミーティングルーム・カウンセリングルーム・職員室</p> <p>第二校舎 3 階:バンケット実習室/ブライズルーム 2 階:チャペル/ホワイエスペース/親族控室 1 階:ドレス実習室</p> <p>2017 年 3 月には第二校舎としてゲストハウスの施設を備えた専門実習棟を建設し、実践力を身に付ける授業の精度が高められている。</p>

最終更新日付	2025 年5月 1 日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	--------------	-------	-------

6-22 (1/2)

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
<p>6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか</p> <p><input type="checkbox"/>図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか</p> <p><input type="checkbox"/>図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか</p> <p><input type="checkbox"/>学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか</p> <p><input type="checkbox"/>施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか</p> <p><input type="checkbox"/>手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか</p> <p><input type="checkbox"/>卒業生に施設・設備を提供しているか</p> <p><input type="checkbox"/>施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか</p> <p><input type="checkbox"/>施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか</p>	<p>4</p>	<p>定期的に、建物点検を行い法令や設置基準を遵守できているかチェックを行っている。</p> <p>建物・設備のメンテナンスは学園関連企業の滋慶スペースが専門的観点でおこなっている。</p> <p>施設・設備の貸出しは規約を設けた上で、授業等に支障がない場合はおこなっている。</p> <p>改装については、大きな費用が必要になる為、5ヵ年で計画を立てている。</p>	<p>学生の共有スペースの確保はそれほど余裕があるものではない。今後、教室等を含めて運用を検討していく。</p> <p>図書室の利用はほとんどない。現在はネット等で最新情報が取得できました、Teamsで授業に必要な資料が見れるため、図書もオンライン化を検討することも考えられる。</p> <p>IT・DX化の進展に向けた設備・機材の在り方を検討していく必要がある。</p>	<p>現状は教室の割り当て、一部実習室の昼食時間開放、施設使用願い提出などの学校ルールの徹底を持って管理をしている。</p> <p>現在、Teams を活用して、学生への連絡だけでなく、学修へも活用しているが、今後のIT・DX化や生成AIの取入れ等を検討していく。</p>	<p>・校舎地面</p>

## 6-22 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
実際の結婚式体験ができる校舎があるなど、学修についての設備は整っているが、学生のフリースペース確保は今後の課題である。施設・設備の管理やメンテナンスは関連企業が専門的立場から管理している。大きな改装は5ヶ年計画で考えている。図書についてはオンライン化も今後検討していく必要がある。	学生は Microsoft Teams を利用して授業資料の閲覧や課題提出をおこなえる。また、学生へのインフォメーションにも活用している。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

6-23 (1/1)

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	4	<p>学外実習を教育の核に据えて取り組んでいる。実習に際し、要綱やマニュアル、評価基準を明確にし、受け入れ先等と打合せの上、実施している。また、実習先が内定企業に繋がるケースも多くなってきている。</p> <p>ウェディングプランナー科では、全国初となるプランナーアシスタント実習をおこなっている。</p> <p>文化祭等の学校行事はおこなっていないが、ドレスショーやハウスウェディングなど学修の集大成となるプログラムが代替している。</p>	<p>現場実習は養成目的・教育目標からも重要な位置づけとなる学修であるが、学外であるため、問題の発見・対応に迅速に対応できるように常時しておく必要がある。</p>	<p>実習先での学生の不満や意見を担当教職員がタイムリーにキャッチし、現場である企業側と、学生双方と話し合いの場を設け、適切な対応を早急に実施することを心掛けていく。</p>	<p>実習マニュアル 実習規定</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学外実習の意義や教育課程上の位置づけは明確になっており、関連業界と連携した実習の構築ができています。</p>	<p>3年制課程のメリットを活かした他の2年制学校ではできない十分な時間と充実した内容の実習が可能となっている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災(消防)訓練を定期的に行い、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	5	<p>防災に対しては防火管理責任者を置き、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。校舎は、耐震化されており消防設備なども整備されている。建物等の保守点検等に関しては、関連企業であるジケイスペースにより長期計画を策定し、法令順守を基本に改善を進めている。</p> <p>防災訓練を毎年実施し、関係機関への報告もおこなっている。</p>	<p>学生に防災を意識させる教育の工夫の検討が必要。併せて教職員への非常時対応の周知も必要。</p> <p>日頃から災害時の備蓄の管理や見直しをおこなうことが必要である。</p>	<p>防災訓練だけでなく、訓練前や訓練後も災害発生時の対応を学生に意識させるとともに、非常勤講師も含め非常時に学生の安全を守る対応をとれるように意識づけしていく。</p>	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	5	<p>学園グループのヒューマンサービスから人員を派遣している。また、防犯カメラの設置を設置している。</p> <p>発生した事故等は「非日常的事態報告書」を作成し、記録を残し、学園内で共有している。</p>	セキュリティの強化。	<p>第2校舎に続いて、2025年度初めに第1校舎にも防犯カメラを設置する。</p>	・非日常的事態報告書

## 6-24 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		薬品等、危険物は学内に保持していない。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
夜間休日の警備会社の管理の他、日中は関連企業から人員を派遣している他、防犯カメラを設置している。 防災訓練は、毎年実施しており学生だけでなく教職員が非常時の対応を考える機会としている。 事故等が発生した場合は迅速に対応する他、非日常報告書を作成し記録に残すとともに学園で共有している。	学園全体で、「安否確認システム」を導入し、災害時に学生や職員の安否を携帯で確認できるようにしている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。</p> <p>さらに学内に、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適正さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流失および他目的使用のないように管理と研修の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来ウェディング・ホテル業界で働くことに適性があるか総合的に判断している。</p> <p>学納金や預かり金、教材の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を明示し、期の途中で追加徴収を基本的に行わないようにしている。</p>	<p>課題は入学定員の充足</p> <p>2025年入学者は2学科合計で120名の入学定員のうち、入学者は82名であった。</p> <p>他の競合校がすべて2年制であり、本校のみが3年制である。このメリットを周知することが肝要である。</p>	<p>就職活動の時期や早期化、現場力のある人材育成、充実した学修の観点から3年制課程は一番の本校の強みと考えている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

7-25 (1/2)

## 7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	高等学校等で実施している進学説明会に参加し、本校の教育活動の情報を提供している。また、指定校への訪問もおこなっている。本校独自の教員・保護者に向けパンフレットを作成し、学校情報の提供を行っている。	3年制のメリットの浸透(高校生・保護者・高校教員)	3年制の強みを理解してもらう保護者・高等学校教員向けのパンフレット作成、学校HPでの入試説明や学費説明の動画発信続けていく。	保護者パンフレット
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	5	<p>本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。</p> <p>入学希望者に対し、学校説明会やオープンキャンパスを実施しているほか、電話等での相談にも応じている。問い合わせに関しては迅速に回答しており、より深い知識が必要な場合は該当部署と広報担当が協力しておこなっている。</p> <p>情報管理は個人情報保護規定に基づいて厳格におこなっている。</p>			入学案内 募集要項

## 7-25 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>オープンキャンパスではウェディング業界の仕事の魅力を感じられるメニューを取り入れた体験授業をおこなっている。学内だけでなくホテルなど外部でのオープンキャンパスもおこなっている。</p> <p>オープンキャンパスでは教職員に加え、在校生が学生CASTとして入学希望者の対応をおこなっている。</p> <p>入試は総合型選抜、高等学校推薦、一般入試でおこなっている。</p> <p>初年度のみであるが授業料の一部が減免になる特待生制度がある。</p>	オープンキャンパスに参加した入学希望者の出願率の向上。	教職員と学生CASTのカウンセリング力向上(入学志望者に学校の魅力を伝えるとともに、何が本校を選択するネットワークとなっているかをヒアリングできる力)。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生募集活動のルールは順守している。広報活動は HP やオープンキャンパスで本校の強みが伝わるようにしている。入試制度も3種類実施している。入学希望者の個人情報保護は厳格におこなっている。</p> <p>3年制課程のメリットを高校生・保護者・高校教員に浸透させていくことが課題である。</p>	<p>広報活動は単に募集活動だけでなく入学前教育と位置付けている。このため、オープンキャンパスのメニューも単に楽しいだけでなく、将来像を理解できるものとなっている。特待生講習会も実施し、複数回学校に来ることで入学意欲を高めている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

7-26 (1/2)  
7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	5	入学選考に関しては、入学選考規定に基づいた選考を、決められた日程に実施している。選考終了後は、「選考会議」で合否を確定する。面接内容、書類内容を踏まえアドミッションポリシーに照らして判断する。			
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	5	合格者及び辞退者等の現況を示すデータは入試選考毎に蓄積し、適切に管理が出来ている。 毎年入学者アンケートを実施し、入学者の傾向の把握に努め、授業方法などの検討材料としている。 毎月入学者の予測について算出し、事業計画との整合性を図っている。			

7-26 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
東京都専修学校各種学校協会の定めによるルール、及び学則を元にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 入学選考に関する実績は随時把握・更新し教職員で共有している。	将来の希望分野への適性を見極めるため、入試における面接・面談の比重を多くしている。 結果として、学校教育への親和性の高い学生確保に役立っている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

7-27 (1/1)  
7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	5	学費の変更がある場合は、学内で検討し、理事会・評議委員会の決定で変更できる。学納金に関してはカリキュラム内容・学校行事・保健衛生等を詳細に見て決定している。 学費は実習費・教材費にいたるまで募集要項に明示している。			
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	5	東京都専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項等に通知の趣旨に基づき募集要項に返還の基準を明確に記載している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務付けに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。経済的困難な家庭が増えているため、学納金は最も注目される件である。少しでも無駄な要素があると学生の不利益になるので、教材や講師の選定、授業運営を慎重に行っていく必要がある。在学中の納入計画を立てやすいように総額と徴収時期を明示している。</p>	<p>入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。</p> <p>2020年度より高等教育無償化の支援措置がスタート。申請基準を満たし、対象校となっている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準8 財務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>毎年5か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てる事になっている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認される。</p> <p>学園本部の機能は二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みを構築している。</p> <p>また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開が行えるように準備を進めている。</p>	<p>健全な学校運営を行うため、5か年の事業計画ならびに収支予算の策定は、有効かつ重要な手段と考える。しかし近年は環境の変化が激しく、正確な予算作成が難しくなっている一面もある。</p> <p>このような局面においては、責任者のみならず全ての教職員へ予算管理の意識を定着させる事が必要不可欠である。</p> <p>その為の、研修や勉強会の充実を図っていく事が急務となる。</p>	<p>当法人の財務情報公開に関しては、下記の予定となっている。</p> <p>&lt;組織体制&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人統括責任者</li> <li>2. 学校統括責任者</li> <li>3. 学校事務担当者</li> </ol> <p>&lt;公開資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財産目録</li> <li>2. 貸借対照表</li> <li>3. 収支計算書</li> <li>4. 事業報告書</li> <li>5. 監査報告書</li> </ol> <p>&lt;閲覧場所&gt;</p> <p>法人本部</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

8-28 (1/2)

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	5	事業計画書の作成にあたり、5か年の収支予算を立てている。 その中で入学者数、在籍者数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。また、毎月本部の財務担当と支出状況を確認している。乖離がある場合には、次月以降の予算執行計画の見直しを行っている。長期借入金の返済計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。	特になし		
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	5	キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。	特になし		

## 8-28 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近 3 年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		毎月本部の財務担当と支出状況を確認している。乖離がある場合には、次月以降の予算執行計画の見直しを行い、健全・適正な運営がなされている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年 5 か年の予算を組んでいく。</p> <p>これにより中長期の視点で、予算を管理することができているが、学生の募集状況により、立てた5か年の予算は調整が必要になり、運営全体の計画の調整も必須となる。今年度の財務管理は適切に行われていた。</p>	<p>単年度の予算を綿密に作成しているだけでなく、5ヶ年の中長期視点を取り入れている。</p> <p>予算管理のデータ作成は学園グループの専門部署のスタッフがおこない、数字を学校責任者と共有している。</p>

最終更新日付	2025 年5月 1 日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	--------------	-------	-------

8-29 (1/1)

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	5	5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。			
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	5	収支予算については学校現場のみならず学園本部とも協議しながら作成し、見直しをしている。そのため本部と現場との予算に対する認識のずれはない。 作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。 必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。 5年先を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものとする。</p>	<p>予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しをしている。 それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

8-30 (1/1)  
8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	5	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会ならびに評議員会においてその報告を行っている。滋慶学園内に常任監査室を置き、内部監査も実施している。			監査報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えます。</p> <p>監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p>	<p>私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

8-31 (1/1)

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	5	私立学校法に基づく財務情報公開に向けて本部と連携を図り、財務情報公開規程ならびに情報公開マニュアルを作成している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。現状では、学校運営/学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努めている。</p> <p>(1)組織体制            財務情報公開組織体制            人情報管理組織体制            告倫理管理組織体制            環境・安全・衛生委員会            進路変更委員会</p> <p>(2)システム            個人情報管理システム            建物安全管理システム            防災管理システム            物品購入棚卸システム            コンピュータ管理システム</p> <p>各委員会、組織体制、システムで、常に健全な学校・学科運営ができるように努めている。</p>		<p>【調査項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校基本調査(文部科学省)</li> <li>2. 自己点検・自己評価(私立専門学校等評価研究機構)</li> <li>3. 学校法人調査(日本私立学校事業団)</li> <li>4. 専修学校各種学校調査(東京都専修学校各種学校協会)</li> </ol> <p>※調査内容：学校の現状／在籍調査／学生・生徒納付金調査／卒業者の就職状況調査／就職希望者内定状況調査／財務状況調査／財務情報公開に関する調査</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

9-32 (1/1)

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	5	<p>学園全体で、各業務に関するコンプライアンス研修を定期的に行い、年間フローに落とし込んで漏れのないように進めている。</p> <p>法令、規則、規定に関してはグループ校コンプライアンス担当で情報の共有を徹底している。</p> <p>学内では事務局長、学生サービスセンター長が相談窓口となり、学校運営および教職員に対し適正な対応を行っている。</p> <p>学生に対しては教務部長を中心に各担任に研修を実施している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧</li> <li>・教育指導要領</li> </ul>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>コンプライアンスについても、学園全体で力を入れて取り組んでいる。本校では、事務局長、教務部長、コンプライアンス担当者を中心に整備を行っている。</p> <p>法令遵守は最優先事項と捉えており、年々研修のボリュームも増えている。法令に縛られ動きが消極的にならないよう制度を理解する事が重要である。</p>	<p>滋慶 EAP 職員サポートセンターを学園で設立し、公益通報・相談窓口となっている。</p>

最終更新日付	2025 年5月 1 日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	--------------	-------	-------

9-33 (1/1)

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	5	<p>全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいく。</p> <p>学園の全職員が「認定CPA アカデミック講座」を受講し、より一層の個人情報に関する啓発及び教育を実施している。</p> <p>また近年問題となっているSNSの取り扱いについても学生へのリテラシー教育、注意喚起を行っている。</p> <p>個人データの管理取扱い、サイトの運用は関連企業の協力を得て適正に管理をしている。</p>	<p>SNSについての教育は毎年社会的な話題となり、本校としても大きな課題である。</p> <p>学生のITリテラシーの格差についても課題がある。</p> <p>また学園全体でガイドラインを作成しているが、生成AIの取り扱い方法については今後の状況で課題がでてくる可能性がある。</p>	<p>具体例を挙げて職員研修を行い、繰り返し学生への教育を行う。</p> <p>また、講師会議において勉強会も実施する。</p>	<p>・個人情報保護基本規定</p> <p>・特定個人情報取扱規定</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>個人情報に関して教職員への徹底はできているが、学生を含めて学校に関わる全ての人間に徹底をさせる事を目標としている。この問題に関しては既に職員・講師ともに勉強会を実施しているが、今後も継続していく事が重要である。</p>	<p>学生、教職員、講師に対し、ITリテラシー習熟度試験を毎年、実施している。SNSも変化が激しい為、テキストおよび試験の内容も見直しが行われている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

9-34 (1/2)

## 9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	5	自己点検、自己評価委員会を発足させて、毎年 5 月中に、完成させている。 学則等の規定は整備している。 評価結果は学校関係者評価と併せて学校改善の指針としている。			
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	毎年評価を行い報告書にまとめてあり、ホームページの情報公開ページにおいて公表している。			
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	5	毎年 1 回、委員会を実施している。委員会議事録も終了後に配信をし、情報共有を図った上で、学校改善に取り組んでいる。 委員は規定に基づき適任者を選任している。			
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	毎年評価を行い報告書にまとめてあり、ホームページの情報公開ページにおいて公表している。			

9-34 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年自己点検・自己評価を行い課題の洗い出しを行い、その中でも重点項目を絞り問題解決を図っている。合わせて学校関係者評価委員会を立ち上げ、自己点検自己評価への第三者視点を取り入れるよう取り組んでいる。	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

9-35 (1/1)

## 9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	5	既にホームページ上で公開されているおり、情報に変更があった場合には、随時更新をしている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育情報に関する情報公開はホームページで適切におこなっている。職業実践専門課程や高等教育の修学支援新制度では情報公開は不可欠となっている。業界との相互理解はますます重要性を増してくる。顧客(業界・学生)のニーズに応えられる教育を行い続けていく為にも、積極的な情報公開は必要不可欠である。</p>	

最終更新日付	2025 年5月 1 日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	--------------	-------	-------

## 基準10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>ウェディング業界における課題として、結婚組数の減少が挙げられる。</p> <p>結婚をしない理由としては、①経済的理由 ②授かり婚 ③セレモニーが嫌いの順となっている。</p> <p>そこで、本校では校舎を使い、かつ学生が主体となって企画・運営を行う結婚式(ハウスウェディング運営)のサービスの提供を行っている。</p> <p>これは、ウェディング業界の活性化を図る一助となると共に、学生にとっては極めて教育効果の高い現場を経験する事が可能となる。</p> <p>このようにして社会や地域貢献への取り組みを行っている。</p> <p>沖縄県と「沖縄県で働きたい」と考えている学生を支援するための連携協定を結んでいる。沖縄県の採用情報や魅力を知る授業、インターンシップ希望の学生と企業とのマッチングなどを沖縄県に全面協力のもといただき、沖縄での就職をサポートし、沖縄県の人材確保に貢献している。</p> <p>IT・DX化を推進し、授業資料などから紙を無くしていき、学校現場での多量な紙の使用をなくしてきている。</p>	<p>学校が教育プログラムとして本物の新郎新婦さんを対象とした2つの結婚式のプロデュースを実施している。</p> <p>① ハウスウェディング運営(ウェディング科) 学校の資源を活用して、学生が本物の結婚式をプロデュースする。</p> <p>② 結婚式運営(ウェディングプランナー科) 企業連携型カリキュラムとしてウェディング業界と連携し、本物の結婚式場で結婚式をプロデュースする。</p> <p>上記の教育プログラムは社会貢献度と教育効果の2つの側面で大きな価値があると感じている。</p> <p>課題は新郎新婦の集客である。毎年実施希望者を確保できる広報手法の確立を図りたい。</p> <p>そのため、ハウスウェディング運営および結婚式運営については、ウェディング事業に関心を持つ企業とのコラボレーション、学園内の各校・各事業所・保育園などに協力を要請し、地域の方や関係者の伝手を使い、認知拡大を図っていく。</p> <p>今後は、学校の特性や強みを活かした社会貢献・地域貢献がどのようにできるかを検討いく。</p>	<p>本物の結婚式ができる施設・設備を学校内にもっている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

10-36 (1/2)

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	4	<p>本校では学校評価の指標として 4 つの信頼を掲げている。その中に「業界からの信頼」・「地域からの信頼」を掲げ、行動の指針としている。</p> <p>具体的な取り組みとしては校舎を使い、学生が主体となって企画・運営を行う本物の結婚式(ハウスウェディング運営)が挙げられる。</p> <p>ウェディングプランナー科では、業界企業との連携したプランナーデビューを目指すための教育プログラムと、他校では実施していない形式の実習を整備している。</p> <p>沖縄県と提携を結び、沖縄での実習・就職をサポートし、沖縄県の人材確保に貢献している。</p> <p>学園の取り組みとして、毎年、中高生の職業体験を目的とした滋慶学園グループ職業体験フェスタを実施している。</p>	<p>地域や社会に貢献できることを学校発信で積極的に提案することまでには至っていない。</p>		<p>・入学案内</p>

10-36 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<p>本校では建学の理念として、「国際教育」を掲げており、国際的な感性を養うことを大切にしている。</p> <p>学園では多数の海外教育機関と提携しているが、ウェディング分野での取り組みの現状はない。</p> <p>留学生も現在の在籍はなく、募集を閉ざしているわけではないが、留学生向けの情報発信はおこなっていない。</p> <p>学生は選択資格でTOEIC対策の授業をとることができる。</p>	<p>ウェディング分野で海外との提携・連携について検討することが重要である。</p> <p>今後、留学生が入学した場合、留学生対応の経験がない職員も一定数在籍している。</p>	<p>海外との提携・連携では、リゾートでのウェディングやホテルについて検討していきたい。</p> <p>留学生に対しては、留学生対応の経験がある教職員のOJTや本部の協力で、対応スキルのある人材を増やしていく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校では建学の理念として、「国際教育」を掲げており、国際的な感性を養うことを大切にしており、海外との提携・連携など今後の在り方について検討している。	

10-37 (1/1)

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	4	例年企業・業界と連携したボランティア活動に取り組んでいる。 毎年2月に実施されている、ウェディング企業が一同に集まる合同説明会(ウェディングジョブ主催)の、運営ボランティアでは本校単独で依頼があり、担当させて頂いている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生の教育的価値とも照らし合わせつつではあるが、ボランティア活動については積極的に情報提供、募集を行っている。	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	山浦 雄矢
--------	-----------	-------	-------

## 2024年度重点目標達成についての自己評価

2024年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>◆産学連携教育×3年制教育だからこそ出来る教育カリキュラムの構築及び強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産学連携教育の質と量で身に付ける即戦力</li> <li>・3年制教育で一人ひとりに合った将来を見つける</li> <li>・実践型授業で提案力を養う「集大成プログラム」</li> </ul> <p>◆学生一人ひとりに合わせた組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全の場の提供</li> <li>・学科担当者以外にも各種チューターとなり、学生が相談しやすい環境を作る</li> </ul>	<p>◆新しい産学連携先としてはリゾートウェディングのコンテンツは強化できた。</p> <p>◆安心・安全の場を提供するためにチューター制を導入し、2年が経過した、職員もチューター制の考え方には慣れてきたと感じる。</p>	<p>◆実習先や実習内容は従来通りで新たな提携先の開発が必要。</p> <p>3年制だからこそできるカリキュラムの強化が課題である。</p> <p>◆チューター制を上手く活用している学生と活用できていない学生がいるため、さらに学生が安心して相談できる環境を作る必要がある。</p>